

- 主な内容
- 1 東日本大震災被災地に医療チームを派遣  
病院からのお願い「節電対策へのご協力をお願いいたします」
  - 2 千葉大学医学部「第1回白衣式」を開催  
みなみ様の壁画が絵本に ・患者さんの声
  - 3 はじめまして、今年の新人です  
[ミニニュース]小児病棟で保育士が活躍中  
[ミニニュース]院内コンサートを開催
  - 4 [フリートーク]和漢診療科長 並木 隆雄  
[トピックス]熱中症  
[ちばをてくてく]②千葉市科学館(Qiball[きぼーる])



千葉大学医学部附属病院

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1  
TEL 043-222-7171 (代表)

<http://www.ho.chiba-u.ac.jp/>

## 東日本大震災被災地に 医療支援チームを派遣



医療支援活動をするDMAT

3月11日の震災により甚大な被害を受けた東日本太平洋沿岸地域。千葉大学病院では、多くの医療支援チームを継続的に派遣し、被災地への医療支援活動を行っています。

DMAT(ディーマット)が被災地で医療支援

平成23年3月11日に発生した東日本大震災にあたり、災害拠点病院に指定されている当院のDMATが医療活動を行いました。

「DMAT(ディーマット)」とは、「Disaster Medical Assistance Team」の略で、災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チームのこと。災害の急性期(災害発生後48時間以内)に、国からの要請を受けて被災地に出動し、災害現場や病院などで医療救護活動を行います。

千葉大学病院には現在、国指定の訓練を受けた医師・看護師・薬剤師・事務職員から成るDMATを3チーム編成しています。今回の大震災でも、震災発生直後より茨城県水戸共同病院・宮城県仙台市立病院・岩手県宮古病院を拠点に、病院や周辺地域で患者搬送、トリアージ活動や診療を行いました。

### 「医療救護班」7チームを派遣

また、東北大学病院からの要請を受け、院内の医師・看護師・医療スタッフからなる「医療救護班」を組織しました。震災発生から3月31日までの間、宮城県石巻赤十字病院を中心に、7チーム計39名が医療救護活動を行いました。



千葉大学病院の医療救護班

3月30日からは、新たに東京大学病院、名古屋大学病院、東京医科歯科大学病院、群馬大学病院及び山梨大学病院チームと連携し、リレー方式による医療救護活動を行いました。これは、およそ一週間ごとに交代しながら継続的に医療活動を行うもので、宮城県南三陸町志津川地区を拠点に行われ、当院からは医療救護班(6チーム計37名)が派遣されました。

### 「心のケアチーム」、その他の活動

被災地には、震災後も断続的に続く余震による不安や、避難生活、復旧活動に伴うストレスなど、精神的負担を強いられている人たちが多く見受けられます。これらの負担を少しでも取り除くために、東京大学と共同で、精神神経科医師・看護師・臨床心理士からなる「心のケアチーム」17班計16名を派遣。東松島市内の各避難所で、避難者への声かけ、情報提供、診察といった、精神的ケアを中心とした医療活動を行いました。また、千葉県旭市内の避難所でも同様の活動を行いました。

ほかに、警察庁やNPO法人からの要請を受け、岩手県・宮城県・福島県に医師・歯科医師を派遣しています。

千葉大学病院では、今後も東日本大震災の被災地に向けた医療支援を継続するとともに、災害拠点病院として、災害被災地の医療支援について検討したいと考えております。

※トリアージ活動とは、災害医療において最善の救命効果を得るために、多数の傷病者を重症度と緊急性によって、治療の優先度を決定すること。

## いのなコラム 不惑からのボクシング

40歳を目の前にした、ある日のこと。仕事だ、家庭だと理由を付けてあきらめていたボクシングへの未練が湧いてきた。数カ月迷った末に、本千葉駅前にある「赤城ボクシングジム」の門を叩いた。

明るいジムに、ああ憧れの青いリング。プロ選手の隆々とした筋骨と、猛々しい気迫に圧倒されるが、その傍らで自分より年上の「おじさんロッキー」達も汗を流している。

行きたい時間に行き、自分でメニューを組むようにした。ジムに通う者には、プロを目指す者もいれば、ダイエット目的の女性、屋間のストレッチをサンドバッグに叩きつけ、すっきり顔で帰る社会人もいる。

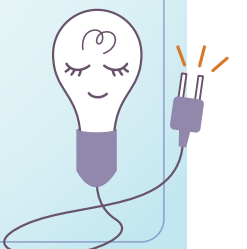
活きのいい高校生とリングで向かい合う。当てない程度の距離で拳を交える「マスパーリング」だが、四方からパンチが飛んでくると思がすくむ。目を見開き、アタフタと不恰好に心戦するのがやっと。

仕事の都合で、週1回の練習がやっとなため、進歩も遅く、皮下脂肪もなかなか減ってはいけませんが、そこには「生きていく実感」がある。男40歳「不惑からの」いや、「不惑」だからこそのボクシング。今の歳だから感じられる、楽しみや充実感がここにはある。「何歳まで続けるの?」と聞かれたら、答えはいつも用意している。もちろん「ドクターストップ」の音がかるまでだ。

(元総合医療教育研修センター 講師 井上雅仁)

### 【病院からのお願い】

節電対策へのご協力を  
お願いいたします



夏期ピーク時電力消費量について、15%以上の節電目標が掲げられています。千葉大学病院でも、病院機能を損なうことなく最大限の効果が得られるよう、スタッフ一丸となって節電に取り組んでいます。

現在、共用部分の照明を昨年度の約3分の1に抑えています。これにより、ピーク時消費電力量の約1%にあたる節電が達成されています。個別の部署でも、照明を落とし、さらなる節電に努めています。

当院の空調設備はガス式のため、温度調節による節電効果は

望めない仕組みですが、個別の電気式空調設備は、医療機器に影響がない範囲で、原則として気温28度に設定しています。また、職員エリアでも各種電化製品の使用を控えるなど、細かい点に気を配っています。

当院ではこのように、医療の質を落とさないことを前提に節電に取り組んでいます。ご来院、ご入院の皆さまにはご不便をおかけしていますが、この夏の電力需要が供給を上回らないようにするためにも、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

(節電対策WG 市川智彦)

# 医学部新5年生が、医療人としての 第一歩を踏み出しました

千葉大学医学部  
「第1回白衣式」を開催



**医学部で初の「白衣式」開催**  
平成23年4月8日、千葉大学医学部第1講義室で、第1回白衣式が行われました。

福するとともに、医学生自身が医療者の一員として、社会に貢献する立場となる自覚を新たにすることを目的としています。



中谷医学部長の祝辞

試験に合格し、臨床実習を開始する資格を得た学生たちに対し、これまでの学習努力を讃えると共に、医療者としてのこれからの心構えを促す重要な式典です。

**4月から臨床実習を開始**  
白衣式を終えた医学生たちは、4月11日からステューデント・ドクターとして、千葉大学病院の各病棟で臨床実習を開始しています。

列席した医学生は、4月から医師となるための臨床実習を開始することになります。中谷医学部長からは、「白衣を着て臨床の場に立つことは、医療チームの一員として、責任を持つというところ、厳しくもあたたかい言葉が贈られました。続いて、横須賀教授や来賓の方からも、祝福と激励のメッセージがありました。そして、いよいよ白衣の授与です。厳粛な雰囲気の中、教授たちから学生一人ひとりに、白衣が授与されました。白衣の左腕には、それぞれの氏名と医学部本館のイラストが刺繍されています。医学生たちは皆それぞれに医療の仕事に係わるこの重みを感じ、決意を持ったことでしょう。

式の最後には、代表の医学生が、医療チームの一員として社会に貢献すると、誓いの言葉を述べました。

授業者より、医学生一人ひとりに白衣を授与



白衣授与

## みなみ棟の壁画が絵本に



### 患者さんに絵本をプレゼント

今年3月末より、小児病棟へ入院される患者さんと、周産期・母性科病棟にて出産されるお母さん方へ、絵本「きょうはぼくらがゆうびんやさん」をプレゼントしています。

これは、皆さんが元気な入院生活を送れるように、当院で企画し、発刊したものです。絵本に登場するキャラクターは、みなみ棟3階小児病棟を飾る壁画に描かれた愛称「みなみまち」とそこに暮らす仲間たちです。この「みなみまち」は、一昨年に医療者・教育学部の皆さんと、画家の伊藤香奈さんが力を合わせて壁一面に創りあげた壁画です。壁画の制作期間中から関係者たちがあたたかみでいた次は、これを舞台にした童話絵本を子どもたちへ届けたいという思いがきっかけになり、誕生したものです。

童話のストーリーは、壁画同様、千葉大学の力を合わせたものにしよつと、昨年3月に全学生と教職員へ向けたコンクールを実施して選考しました。

### 絵本は被災地の子供たちへも

絵本作りはもちろん初めてのスタッフたちでしたが、藤澤英昭前教育学部長にご紹介いただいた、児童図書出版の老舗である小峰書店より編集のご協力をいただき、編集者の方々からたくさんアドバイスをいただきました。小峰社長からの「真剣な仕事をして、しっかりとした作品に仕上げなければ、子どもたちには気に入ってほしい」との言葉を胸に、作画の伊藤さんと、コンクール最優秀作者である大学職員山田さん、そして病院スタッフと作り上げた絵本です。

ところが制作も大詰め、最後の打合せを行っていたその日に、あの大震災が起こりました。幸いにも絵本は予定どおり発刊することができたばかりか、被災地の支援にかけつけた当院の医療者と職員の発案で、現地の子どもたちに寄贈することもできました。

さまざまな出来事を経て誕生した一冊です。この絵本が、患者さんの心に届くよう、関係者一同願っています。

今後、続編となる次回作の発刊も予定しています。



小児病棟の子どもたちに絵本をプレゼント



**「きょうはぼくらがゆうびんやさん」**  
作・やまだ まどか  
絵・いとう かな

第一歩を進みはじめました。今後千葉大学医学部、千葉大学病院では、次世代を担う医療人の育成に努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

(総合医療教育研修センター 朝比奈真由美)

## 患者さんの声

皆さまからこんな声が届きました。患者さんの声にお答えします。

### ◎ご要望

#### 病室に注意書きの掲示を

入院中、大部屋に見舞いに来る人が大声で話をしていました。あまりに酷いので、事務の人や看護師に注意を頼みました。病室に、相部屋での過ごし方やマナーの掲示があるといいのでは？

**A** 入院療養中に安静を妨げるなど、ご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。入院される方には面会時間や病室での過ごし方について説明し、ご協力いただいておりますが、行き届かない点がありましたことをご詫言いたします。今後は、入院時に十分ご理解いただけるように、さらに詳しくご説明すると共に、面会時間を守っていただくことや面会コーナーを活用していただくことなどを

### ◎お便り

昨年12月に、3日間整形外科に入院しました。手術や入院は約40年ぶりですが、不安で仕方ありませんでした。でも、いざ手術室へ行くと、入口で待っていた先生が声をかけてくださったり、手術台の上では肩にかけていただいたバスタオルが温かく、聞けば、「温めていますよ」とのこと。細かい心遣いにも感激でした。先生方、スタッフの皆さんが常に声をかけてくださり、安心して手術を受けられました。本当にありがとうございました。

含め、皆さまが快適な入院生活を送ることができるよう病室の環境維持に努めてまいります。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。



フリートーク **並木 隆雄**  
千葉大学医学部附属病院 和漢診療科長

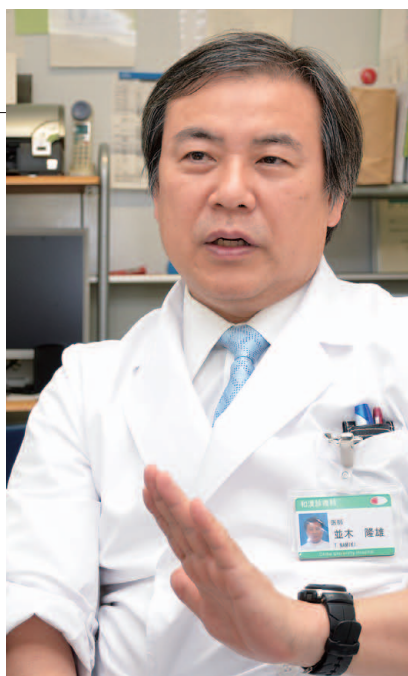
**漢方と西洋医学のいいところ取り  
それが和漢診療学**

和漢診療科は2005年に誕生したばかりの新しい講座です。「漢方」のいいところと、「西洋医学」の最先端、双方のいいところを取り、最善の医療をめざそうというのが「和漢診療学」のコンセプトです。前任教授であった寺澤捷年先生が初めて提唱したものです。

現在の日本の診療は西洋医学がほとんどで、私たちのように東洋医学と併用している大学はそれほど多くはありません。じつは本場の中国でもすでに、東洋医学と西洋医学はまったく違う体系に属し、共存するとはならないのです。

皆さんも、西洋医学と東洋医学は相反するものだというイメージをお持ちかもしれませんが、私たちが目指すのは、お互いに補い合える、より高いレベルの治療です。

和漢診療学は、いくつもの見方ができる医療です。複数の見方ができるということは、解決方法も複数あり、患者さんを治せる確率も高くなるのです。しかしこれも、西洋医学のきちんとした判断があったからこそ。西洋医学の診断や検査結果に基づいてはじめて、漢方などを治療に使うことができるのです。



**「未病」を「健康」に近づける**  
自然と密接に結びついた和漢診療学

**Profile**  
並木 隆雄 (なみき たかお)  
千葉県生まれ。千葉大学医学部のサークル、東洋医学研究会OB。1985年千葉大学医学部卒業後、循環器内科医師として勤務。2005年、千葉大学大学院医学研究科に和漢診療科が設置され、同客員助教授となる。2010年に千葉大学大学院医学研究科に和漢診療学准教授に就任。2011年、千葉大学医学部附属病院和漢診療科長、現在に至る。

**西洋医学をベースに、一人ひとりに合った治療を**

先日、ある患者さんからこんな手紙をいただきました。長年身体の痛みが酷く、坐薬を使って体調を崩し、姉を亡くされ、そのストレスで体調を崩してしまつたのです。涙、汗、体液が出にくいという症状があったので、西洋薬にはないというお薬を戻す漢方治療をしたところ、症状がおさまってきたというお礼の手紙でした。

このように和漢診療は、西洋医学だけだと効果があまらなかつた方、難病の方、治療法が確立していない、精神的なストレスを抱えている方などに、より高い効果を表します。患者さんのなかには、医療の現場を知り尽くした千葉大学病院の看護師さんも多くいらっしゃいます。「治つてほしい」と知っているからこそ受診していただいているのだと、誇りに思っています。

**「未病」の状態になったら注意**

趣味は、旅行と落語。人の機微や人情が学べる落語は仕事にとても役立つと思っています。人の心がわからないと、よい診察はできませんから。

旅は学会がらみになつてしまつことが多いのですが、被災した東北にもよく行きました。紅葉が美しく、リアス式海岸の美しい三陸沖などがダメージを受けてしまったことが残念でなりません。

私たちの身体も、自然と密接に結びついていきます。いわゆる病気になるまでの不健康な状態のことを東洋医学では「未病」といいます。この状態を治しておく、病気を未然に防ぐことができるのです。ですから、ちょっと体調が悪いと思ったら気軽に受診の予約をしてください。

**ちば**をてくてく  
プラネタリウムで宇宙の夢を見よう

国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の古川宇宙飛行士から、ツイッターでメッセージが届く時代です。千葉駅の近くにも、宇宙と遊べる最高のワンダーランドがあるんですよ。「千葉市科学館」は、子供も大人も楽しめるアトラクション体験型の科学館。身近な環境のことから、科学、生物、工学、そして宇宙のことまで、遊びながら学べる楽しい空間です。8月の科学館は、夏休みの自由研究のヒントになりそうな実験・工作教室がたくさん。テーマに困ったら、迷わずここへ。

ここに来たらぜひ体験したいのが、ハイブリッド方式のプラネタリウム施設です。光学式の恒星投影機「ケイロン」と、デジタル方式の「バーチャリウムII」という2つのシステムを同時に使って、1000万個以上の星々を、ドーム型の天井に映し出してくれます。プログラムは、毎日6回ほど上映。一番人気は「HAYABUSA ディレクターズカット版」です。プラネタリウムが映し出す、本格的な星や宇宙のストーリーは、まさに「宇宙体験」。身近になった宇宙に思いを馳せながら、星と天体のショーに、思いっきり浸ってください。

©千葉市科学館(043-308-0511)  
http://www.kagakukanq.com/  
※プラネタリウムは別途入場料 500円(大人)が必要となります

満天の星が楽しめるプラネタリウム

**十分な水分やミネラル補給を**

**熱中症**

地球温暖化の影響で、熱中症の発症数が年々増加しています。今年ほどくに、節電のため、エアコンの使用を控えたり、設定温度を高めにするのが推奨されていることから、さらに増加するおそれがあります。

熱中症は、外部環境の暑さに対して体温調節がうまく行われないうちに起こる病気です。一般的には、炎天下で長時間の作業や激しい運動をした時に、十分な水分やミネラルが補給されないことにより起きますが、お年寄りや体調不良の方の場合、高温多湿の室内環境でも起こります。

熱中症はⅠⅡⅢ度に分類されます。Ⅰ度は脈拍数・呼吸数の増加、多量の発汗、めまいなどの症状や、一過性の意識消失(熱失神)・筋硬直(熱けいれん)などが現れます。Ⅱ度では、頭痛や

嘔吐・倦怠感・判断力欠如などの症状が現れます(熱疲労)。Ⅲ度は「熱射病」と呼ばれ、40℃以上の高体温と意識障害を伴い、放置すると腎不全や肝不全などの多臓器障害を合併して命にかかります。

Ⅰ、Ⅱ度では体温はそれほど上がらないので、熱中症かどうかの判断はつきません。暑い環境でこのような症状があるときは、涼しい環境へ移動して水分やミネラルを十分に摂取するようにしましょう。水やお茶ではなく、冷たいスポーツドリンクや経口補水液(薬局等で購入できます)にすると効果が上がります。

予防のためには、まずは体調を整えること。そして、暑い環境では無理せずクーラーや扇風機を活用して暑さを避けること、十分な水分とミネラルを定期的に移るように心がけましょう。

(救急部・集中治療部 織田成人)

**あとがき**

東日本大震災から4ヵ月が過ぎ、原発事故への対応も含め、大きな困難を抱えながらも復興への取り組みが進んでいます。千葉大学病院でも、震災直後から医療支援を進めていますが、本号ではその取り組みが詳しく紹介されています。その他、医学生の白衣式も紹介されています。よい医師を育てるための医学生への教育も大学病院の大切な責務です。

本年度から病院広報の仕事に参加させていただいています。私自身も広く社会にも目を向け、最新、最善の医療、看護を目指して取り組んでいる病院の姿を紹介していきたいと思えます。今年は暑い夏になるとの予想です。節電が求められていますが、トピックスの熱中症対策の記事も参考に無事に乗り切りましょう。

(広報委員長 耳鼻咽喉・頭頸部外科 岡本美孝)